連合長崎
ユースターニュース
2013 No.2
連合長崎青年委員会
発 行 日　2013.11
発行責任者　鳥飼　公太
編 集 者　中村　修治

ユース21交流集会開催

2013年９月28日～29日、長崎市の「ながさき式見ハイツ」において「ユース21交流集会」を開催し、連合長崎・佐賀より事務局を含め118名、長崎からは実行委員６名（青年委員会４名、女性委員会２名）及び構成組織から45名（男性31名、女性14名）が参加しました。本集会は、産別の枠を超えた交流・学習により労働運動を担う青年・女性リーダーの育成を目的に、一昨年より連合長崎・佐賀の青年・女性委員会合同で開催し、今回で３回目の合同開催となりました。

１日目は、自治労九州地区連絡協議会青年部長の石口敏広様をお招きし、「私たちと労働組合～もし労働組合がなかったら～」と題し、「労働組合の役割は、労働に関する法律が守られているか確認すること」、「労働運動で最も重要なことは仲間作りである」等、労働に関する法律にも触れながら、労働組合の必要性について講演をいただきました。引き続き、12班に分かれ、「サービス残業が常態化している職場」を事例にＫＪ法による分散会（グループ討議）を行いました。

分散会の後は、夕食交流会（バーベキュー）を行い、産別・県を超えて交流を深めました。

石口　敏広様による講演

夕食交流会

KJ法とは？

問題解決のためのアイディアを出す手法の一つで、あるテーマに対して思いついたことを各人が付箋紙に書き出し、出された意見をグループ化・図解化しながら解決策を導き出していきます。

２日目は、１日目の分散会の続きを行い、最後に「サービス残業が常態化している職場」を改善するために取り組むべきことについて各班より報告を行いました。産別・地域の枠を超えて、青年・女性委員会が一体となって学習・交流を深めることができ、参加者からは「連合佐賀や他産別の方と意見交換ができて有意義だった」、「様々な会社の話が聞けて良かった」という声を多数いただきました。

分散会報告

連合第14回ユースフォーラム

～意外と身近な労働組合　もっと広げよう　仲間のきずな～

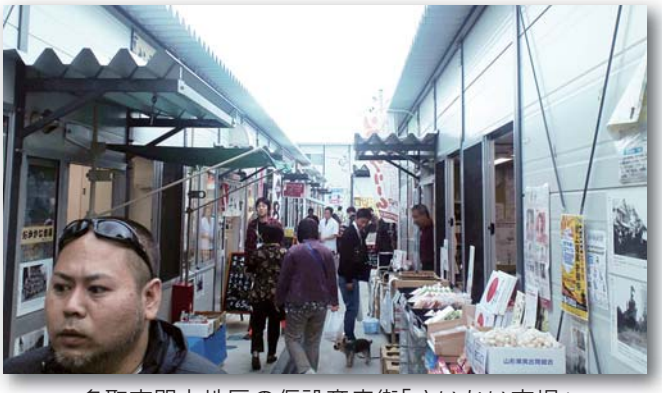
2013年10月19日～20日、宮城県仙台市にて「連合第14回ユースフォーラム」が開催され、連合長崎青年委員会より１名（中村事務局長）参加しました。この「連合ユースフォーラム」は、もともと中央で開催していましたが、青年（男女）組合員の連合運動への参画意識を高め、組織強化につなげるため、第12回（九州ブロック・宮崎県）より、各地方ブロック持ち回り開催としています。

１日目は、一昨年の東日本大震災にて津波の被害にあった宮城県仙台市若林区荒浜地区、名取市閖上地区の視察が、連合宮城青年委員のガイドのもと行われました。

「荒浜地区の家屋、海辺の防災林はほとんど津波によって流された」、「防波堤の建設・嵩上げ工事はあまり進んでおらず、復興への道はまだ長い」、「今なお、多くの人が仮設住宅で暮らしている」等、被災地の現状について説明をいただきました。

津波の被害にあった荒浜小学校
（現在は緊急避難所としか利用されていない）

荒浜海水浴場付近の防災林
（津波によってほとんど流されている）



名取市閖上地区の仮設商店街「さいかい市場」

被災地の視察を終え、仙台市秋保温泉 天守閣自然公園・木の家ロッジ村へ移動し、10班に分かれ、「復興に向けて青年の立場で何ができるか」、「防災体制強化に向けて何が必要か」についてディスカッションを行いました。その後、夕食作りでは、炊飯器やガス等の利便性の高い調理器は使わず、バーベキューの火おこしや、炊飯を空缶で行う等、災害ボランティアを意識した自炊を行いました。

２日目は、１日目のグループディスカッションの結果を各班発表し、「防波堤の建設等、設備的な対策も必要だが、住民の防災意識向上が最も必要」、「地域の連携強化を行い、地域一体となった防災体制の構築が必要」等、被災地復興及び防災体制強化に向けた意識の向上・共有を図りました。